

琵琶湖の保全再生に向けた琵琶湖活用の推進について

1. 趣旨

平成27年9月に公布・施行された「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」に基づき、県が昨年3月に策定した「琵琶湖保全再生施策に関する計画」では、琵琶湖と人とのより良い共生関係の形成をめざし、琵琶湖を「守ること」と「活かすこと」との好循環の更なる推進を重点取組として掲げています。

このため、琵琶湖に関わる多様な関係者からなる「琵琶湖活用推進検討会議」での議論をいただきながら、「琵琶湖を中心とする滋賀の自然から享受する恵みの活用や価値・魅力の発信により、人々の関心・関わりの向上や収益の確保につなげ、もって琵琶湖保全に向け主体的な行動を起こすことができる人材の育成や、環境への投資を推進する」方策について検討を行いました。

今年度、これを「琵琶湖保全再生に向けた活用のあり方」として取りまとめ、琵琶湖の活用に関わる各種施策を行うにあたっての指針とするものです。

2. これまでの経緯

- (1) 「琵琶湖活用推進検討会議」での議論(計4回・委員は裏面のとおり)

平成29年7月31日、10月2日、12月4日、平成30年2月23日

- (2) 県議会琵琶湖環境対策特別委員会への説明(計6回)

平成29年5月23日、7月7日、9月7日、10月4日、12月18日

平成30年1月16日、

- (3) その他意見交換、ヒアリング等

滋賀県首長会議での意見交換(平成29年11月14日)

市長会臨時会議への報告(平成30年1月17日)

経済団体連合会との連絡調整会議(平成30年2月13日)

琵琶湖活用に関わる方へのヒアリング(計4か所)

(沖島町離島振興推進協議会、おごと温泉観光協会、

国立環境研究所琵琶湖分室、栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会)

3. 今後の予定

平成30年3月15日(本日) 県議会琵琶湖環境対策特別委員会への説明、

平成30年3月末 「(仮称)琵琶湖保全再生に向けた活用のあり方
～保全再生と活用との循環の推進に向けて～」策定

「琵琶湖活用推進検討会議」 委員名簿

	所属	肩書	氏名	(備考)
1	滋賀大学 環境総合研究センター	センター長	北村 裕明	学識経験者 【座長】
2	滋賀県立大学 環境科学部	教授	井手 慎司	マザーレイク フォーラム
3	株式会社 エフウォーターマネジメント	国際部 係長	大橋 希	水環境 ビジネス
4	NPO 法人 琵琶湖ローイング CLUB	代表理事	小原 隆史	スポーツ・ 福祉
5	琵琶湖汽船株式会社	代表取締役社長	川戸 良幸	観光・ 湖上交通
6	滋賀県立大学 人間文化学部	学生	久保 瑞季	※大阪より沖島に 移住
7	滋賀県教育委員会 幼小中教育課	主査	栗田 一路	教育
8	滋賀県漁業協同組合連合 青年会	会長理事	中村 清作	農林水産業 (漁業)
9	関西アーバン銀行	CSR・環境事業室 審議役	原田 久明	金融
10	東近江市永源寺森林組合	技術職員	松尾 扶美	農林水産業 (林業)
11	株式会社エフエム滋賀	アナウンサー	森田 純史	メディア
12	守山市 環境政策課	課長	山本 祐美子	行政
13	オーパルオブテックス 株式会社	代表取締役	山脇 秀錬	スポーツ

(敬称略)